

実施年度	: 2024 (2025 入試) 年度
試験日	: 2025 年 2 月 22 日
入試種別	: 大学院 (修士課程) 入学試験問題
学部・研究科	: 文学研究科 日本語日本文学専攻
科目名	: 専門科目

【解答又は解答例】

〔一〕

【A】

- 問一 ㊦ (例) 久しぶりで愛らしい  
 ① (例) 申し訳程度に形ばかり  
 ㊵ (例) もの思いにふけりながら外を眺めやる
- 問二 ① (例) 子 (「ある君達」と「忍びて通ふ人」との意仇に生まれた「児」)  
 ② (例) 子の母 (「忍びて通ふ人」)
- 問三 掛詞 (子／籠、一人／火取／「思ひ」の「ひ」／火) と「薫物」の縁語 (「ひとり」「思ひ (火)」「こがる」)
- 問四 ワ行上一段動詞「居る」の未然形＋自発の助動詞「らる」の連用形＋完了の助動詞「ぬ」の連用形＋過去の助動詞「き」の連体形
- 問五 (例) ある貴公子と彼がひそかに通う女との間に、かわいらしい子が生まれた。本妻のいる男は、たまにしか女のもとを訪れることができないものの、父のことを忘れずに慕う子が愛おしく、自邸に連れ帰ることもあった。ある日、久しぶりに立ち寄った母子のもとから帰る際に、男はいつものように子を連れて行こうとすると、女 (子の母) は一人残される悲しみを「火取」にちなむ歌として詠んだ。その歌を聞いた男は心動かされ、子を女に返し、自分も帰宅せずにとどまった。
- 問六 いとふ身はつれなきものをうきことをあ／  
 らしにちれるこのはなりけり
- 問七 (例) この世を捨てたいと思うわが身は何事もないかのように生きながらえているのに、つらいことなどあろうはずのない木の葉は嵐のままに散っていくことであるよ。
- 問八 (例) 聞こえないくらいのかすかな声を耳にしましたときの (気持ちは)
- 問九 『堤中納言物語』

【B】

問一 「私の個人主義」

(例) 1914年(大正3年)に学習院で行われた講演をもとにしている。個人主義を利己主義と区別し、世間や権威に左右されない精神の自立を説く。自由には責任と孤独が伴い、他人の人格を尊重する成熟した個人主義が必要だと主張する。

問二 『日本近代文学の起源』

(例) 日本近代文学を内面表現の発展史として捉える従来の見方を批判し、〈風景〉〈内面〉〈告白〉などの認識形式が近代に制度的に成立した過程として再定位した批評。

問三 「今の武蔵野」(「武蔵野」でも可)

(例) 明治期の武蔵野の雑木林や田園の風景を描き、自然の静けさと人の孤独な精神を重ね合わせる。近代化で失われゆく自然の価値を見つめ直し、読者に内省を促す作品。

問四 (例) 永井荷風『墨東綺譚』は、昭和初期の東京・玉ノ井の私娼街を舞台に、作家大江匡が芸者お雪と交わりながら、滅びゆく下町の風俗と美を見つめる物語である。近代化に抗し、享楽と退廃の中に日本的情緒への執着と孤独な美意識を描いている。

問五 (例) 新感覚派：横光利一、「蠅」

(例) プロレタリア文学派：葉山嘉樹、「海に生きる人々」

問六 (例) 「三四郎」、地方出身の青年三四郎が上京し、大学生活や知識人との交流、美禰子への淡い恋を通して、近代社会の不安と自己の未成熟さに目覚めていく小説。

(例) 「草枕」、画工の「余」が俗世を離れた温泉場に滞在し、自然や芸術を観照する中で非人情の境地を求め、東洋的美意識を描く物語。

問七 無頼派(新戯作派も可) (例) 織田作之助、『夫婦善哉』

【C】

問一 山東京伝 (例) 寛政三年三月、正月に出版した京伝の洒落本『大磯風俗 仕懸文庫』などについて、京伝、板元の蔦屋重三郎、前年十二月の地本問屋月行事二名が奉行所に召し出され、吟味の結果、京伝は手鎖五十日、蔦重は身上半減の重過料を申しつけられた。

問二 aもののほん bじほん cうりひろ dわかやま eぼっこう

問三 喜多川歌麿 (例) 『高名美人六家撰 難波屋おきた』『婦女人相十品 ポッピンを吹く娘』など

問四 おうらいもの (例) 鎌倉時代から明治初期に編まれた初等教育の教科書、副読本の総称。はじめは書簡の文例集だったが、しだいに作文のための短句・単語集や文案・文例集となり、さらに社会常識、実用知識なども盛りこむものとなった。寺子屋などにおける教育に果たした役割は大きく、『庭訓往来』『商売往来』などがよく知られる。

問五 (例) ここでは、他の本屋が出版した書物を許可なしにひそかに出版すること。

- 問六 本居宣長（例）江戸時代中期の国学者。伊勢松坂の木綿問屋小津定利の二男。家督を継ぐが、若年のうちに京都に遊学し、姓を本居とする。医学を学び、伊勢に帰った後は町医者となり実地の診療を行う一方、賀茂真淵に学び、国文学と神道の研究に傾倒する。著書に『古事記伝』『玉勝間』『初山踏』などがある。
- 問七 其の巧思妙算、他の人の能く及ぶ所に非ざるなり。（例）その巧みな考えやよく考えた計画は、他の人がそれに及ぶことができるものではなかった。

## 【D】

- 問一 ① [s]      ② [g]      ③ [h]      ④ [b]
- 問二 当該問題は、受験生の今後の研究に必要な基礎的な知識を問うものである。設問の性格上、解答例の提示はなじまないことから、以下に採点のポイントを示す。
- ・入学後の円滑な研究遂行が可能となるような、日本語学の基盤的な知識を身につけていることが理解できる記述内容であること。
  - ・適切な具体例を記し、それに基づいて各用語の説明ができていること。
  - ・アカデミック・ライティングの基本に則り、正しい表記および文章表現で書かれていること。
- 問三 当該問題は、受験生の今後の研究に必要な基礎的な知識を問うものである。設問の性格上、解答例の提示はなじまないことから、以下に採点のポイントを示す。
- ・入学後の円滑な研究遂行が可能となるような、日本語学の基盤的な知識を身につけていることが理解できる記述内容であること。
  - ・適切な具体例、人名、書名などを示しつつ、分かりやすく説明していること。
  - ・アカデミック・ライティングの基本に則り、正しい表記および文章表現で書かれていること。

## 〔二〕

- 当該問題は、本専攻の「入学者受け入れの方針」を踏まえ、専攻分野に関する基礎的な研究能力の一環としての、自身の研究分野を含む日本語日本文学についての基本的事項の広範な知識、および言語表現能力の有無を測定するものである。設問の性格上、解答例の提示はなじまないことから、以下に採点のポイントを示す。
- ・入学後の円滑な研究遂行が可能となるような、日本語日本文学に関する基盤的な知識を身につけていることが理解できる記述内容であること。
  - ・具体例なども適切に示しつつ、分かりやすく、かつ正確な文章で説明していること。
  - ・アカデミック・ライティングの基本に則り、正しい表記および文章表現で書かれていること。